

回覧

旧松代駅舎の利活用を考える講座

主催 松代地区住民自治協議会 歴史文化とまちづくり部会

第1回

「製糸の町松代と河東鉄道」

講師 宮下健司 氏（八十二文化財団理事・聖博物館名誉館長）

明治7年、旧藩士の大里忠一郎らが西条にフランス式蒸気機関を使った製糸工場を六工社として開業させた。以後、神田川水系には、本六工社、六文銭会社が、蛭川水系には松城館、窪田館などが操業され、明治後半から大正にかけて松代の製糸業は最盛期を迎えた。

ここで不要になった蚕の蛹は泉水路を庭に引き込んだ池で、鈴木市兵衛らによって始められた養鯉業の餌となった。大正2年には蚕種の統一が求められ、松代蚕種会社が設立され蚕種の冷蔵保存に西条風穴が利用された。松代・須坂の製糸業者の悲願であった河東鉄道は、大正11年6月10日に開通し、上田―須坂間に直通の生繭列車が走り、繭・生糸・石炭・硫黄と通勤・通学客を運んだ。大正12年3月11日には河東鉄道と長野電気鉄道とが合併し鉄道は湯田中、長野とも結ばれ、昭和に入ると志賀高原の観光開発へとつながっていった。

日時：平成30年1月19日（金） 13時30分～約2時間

場所：松代公民館 第2講義室

参加費：無料

申込み：不要（直接会場にお越し下さい。定員50名。電話申し込み不可）

第2回

「松代駅舎の現在・過去・未来」

～松代大正時代随一の歴史的文化遺産として～

講師 長尾 晃 氏（長尾晃建築研究所長・1級建築士）

松代の「大正浪漫」の代表が、松井須磨子であるとすれば、松代の「大正モダン」を代表するのが長野電鉄旧屋代線の中でも、とりわけ秀逸な造りであった旧松代駅舎（1922年～）といえましょう。

西欧伝来のトラス構造、モダン感覚に溢れた細部意匠をはじめ、和の伝統を活かした貫構造等々松代駅舎の知られざる魅力を紹介するとともに、松代城跡との融合化・共存化をはかった将来構想（地元住民自治協議会にて取りまとめ）も、あわせて紹介。

江戸時代に加えて、近代松代の歴史的文化遺産を、一緒に開拓してみませんか？

日時：平成30年2月9日（金） 13時30分～約2時間

場所：松代公民館 第1講義室

参加費：無料

申込み：不要（直接会場にお越し下さい。定員50名。電話申し込み不可）

問い合わせ先 松代地区住民自治協議会 歴史文化とまちづくり部会

Tel 026-278-1885